

サバヒーを用いたハタ類ほか一本釣り試験操業

鹿児島地域振興局林務水産課

- 1 実施日 平成19年11月20日
- 2 研修課題 サバヒーを用いたハタ類ほか一本釣り漁業
- 3 研修参加者 十島村漁業協同組合所属一本釣り漁業者3名
- 4 研修講師 十島村漁業協同組合所属浦田謙太郎
- 5 使用漁船 龍神丸(KG3-39601), 1.1トン, 25PS
- 6 研修目的

十島村海域では、大型のキハダやハタ類を漁獲する場合にのみ、一本釣でムロアジを釣って活餌として使用しているが、大型のムロアジが多く、当該漁獲対象に適合した中型サイズのムロアジが少ない状況にあることや水深50m前後の海域が有効に活用されていない状況にある。

従って、今回、水深50m前後の海域で大型のキハダやハタ類を漁獲対象とした中型サイズのサバヒーの活餌としての漁法を習得する。

7 研修内容等

- (1) 操業時刻・平成19年11月20日(火)13:30~17:30
- (2) 操業水深・諏訪之瀬島周辺海域(水深:50~100m)
- (3) 漁具・一本釣/鉤素:ナイロン(シーガー30号)3.0m, 釣針:口太・環付18号
錘:150号, 天秤, サバヒー(活餌)/全長20~25cm(背掛け及び鼻掛け)

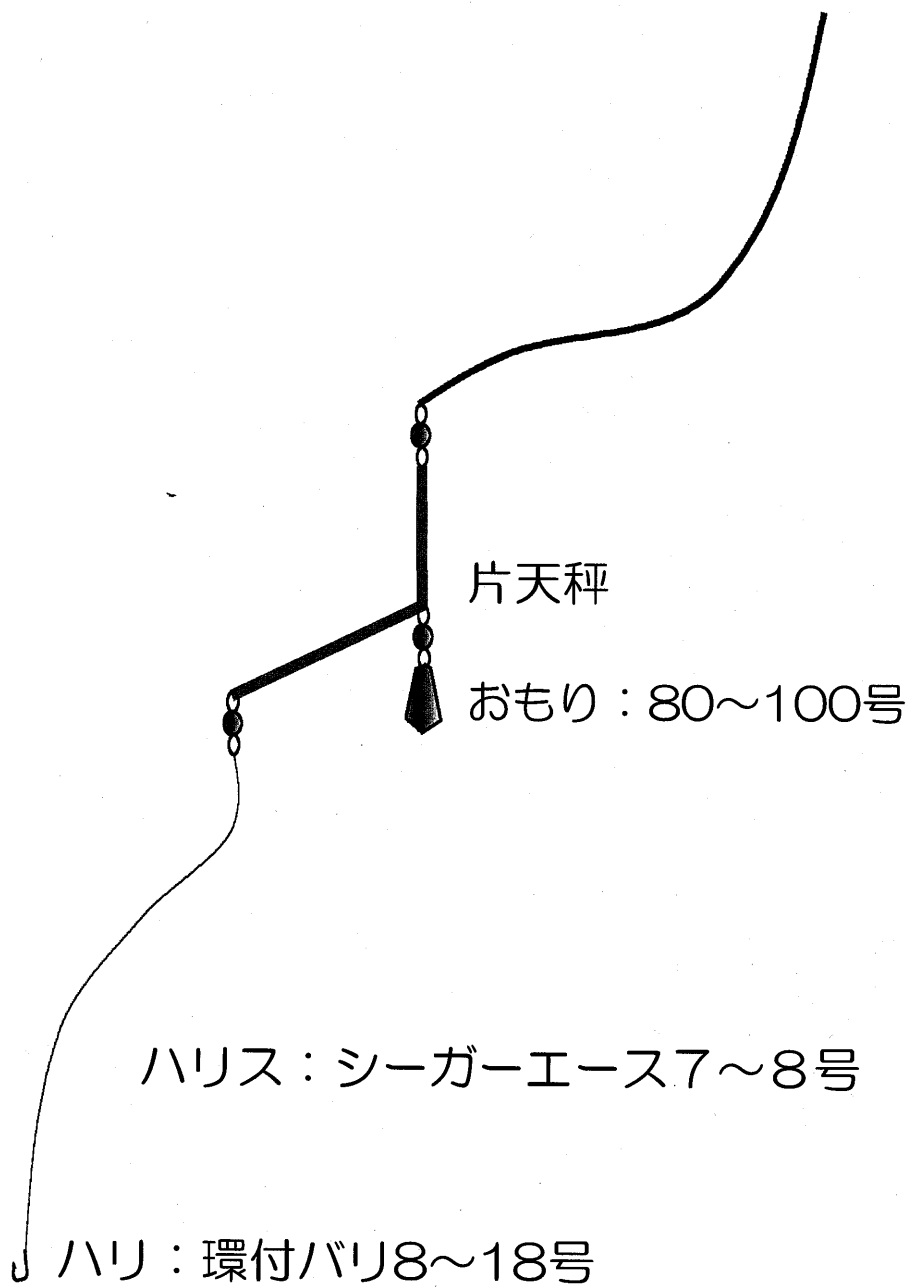
8 研修結果の概要

乗船研修用として運搬したサバヒー165尾中、約100尾が運搬後に繁死したため、残り約60尾を龍神丸に収養し、13時30分より操業(水深50~100m, 水温23.5℃)を実施した。

その結果、17:30までの操業(約4時間)において釣果はなかった。

その原因として、長時間に及ぶ運搬による(ズレ)サバヒーの活力低下、時化による操業区域の限定、潮汐、低水温等が考えられた。

なお、研修後、繁死したサバヒー切り身でフェフキダイ、イソマグロ等が釣れたとのことであった。





サバヒー輸送状況



収養後斃死



斃死したサバヒー（出血）



使用漁船



漁場へ移動



研修中